

4 研究開発の内容と評価

① 「スピーチ」を通してのコミュニケーション能力の向上を目指す研究

・実施内容

1年生のオーラルコミュニケーションIと2年生のライティングの授業でスピーチの原稿の書き方について指導をした後、生徒には、5月と夏休みにそれぞれスピーチの原稿を提出させた。

<第1回目のスピーチ>

1年生は"The Country I want to go to Most", "My Favorite Possession", "Free Topic", の中から生徒に一つトピックを選ばせ、100語以上でスピーチを書かせた。2年生は"A place I like the Most in Japan", "My Favorite Possession", "Free Topic"で120語から150語で書かせた。生徒がどのくらい語数の規定を守って原稿を仕上げてくるのか不安があったが、ほとんどの生徒が期限内に原稿を提出することが出来た(*資料2)。1回目の発表時には人前で発表することに慣れておらず、スピーチの原稿から全く顔を上げずに発表している生徒も多数見られた。そこで、2度目の発表前には Martin Luther King, Jr., Malcom X, Richard Milhous Nixon のそれぞれのスピーチを DVD で生徒に見せて、どの演説者が最も聴衆に訴えるスピーチをしていたか考えさせ(*資料4)、その上で発表時の注意点を伝えた。生徒も実際のスピーチを見聞きすることにより、それまで漠然としていた「スピーチ」の様子が理解できてきたようであった。

<2回目のスピーチ>

より内容に深みのあるスピーチを求め、1年生には"If you won the lottery, what would you buy and why?", "If you only had 1 month to live what would you do and why?", "What can we do about our environmental problems?", "I am proud of being Japanese because. . ."の中から一つトピックを選び、120語から150語で書くように指示した。また2年生は"If I won the Autumn Jumbo lottery, I would. . .", "What do you think the most important social issue in Japan is?", "A Heart-Warming Experience"の中から選ばせ150語以上で書かせた。1年生2年生とも語数も多く、中身の濃いスピーチを仕上げた。2回目の発表は1回目と比較して格段に良くなり、顔を上げ、身振りや表情の変化、声の抑揚にも気を遣いながら、大きな声で発表する生徒もいた。また2度目にはスピーチの度に生徒たちの中からジャッジを数名選び、審査をさせた(*資料5)。他人のスピーチを審査することにより、「自分のスピーチで何が足りないのか」あるいは「どうすればよいスピーチ発表ができるのか」を自ら考える姿勢が見られるようになった。

<スピーチクイズ>

聴衆となる生徒達がスピーチに集中するよう、ALT が英語のスピーチクイズを用意し(*資料3)、それに答えながら理解するように導いた。また、2度目の2年生のスピーチでは生徒自身にスピーチクイズを考えさせ、自分のスピーチを別の視点から見直す機会を作ったスピーチクイズは ALT が回収、添削して返却するという形式を取り、生徒もスピーチを聴くだけで終わりにせず、自分の聞き取りが正しかったのかを確かめることが出来て、かなり励みになっていたようである。

・評価

外国人講師や ALT と JTE のスピーチの評価は、内容、発音、態度のそれぞれを5点ずつ、計15点で審査し、その結果をまとめた評価表を生徒に渡した(*資料6)。1回目のスピーチと2回目のスピーチは同じ評価の仕方を取り入れたが、2回目の評価の方が全体的に高くなっており、生徒のスピーチ力が着実に向上している。

*資料1 「Making a speech in public」 *資料2 「Jump!」 *資料3 「1-5 speeches 2005」

*資料4 「Speech Round 2- Tips for delivering a good speech」

*資料5 「Speeches 2005 Student Judge's Evaluation of Delivery」

*資料6 「評価表」